

■ 基本的な考え方

シチズングループは、社名の由来である「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念とし、地域社会はもとより地球環境と調和した永続的な企業活動を通して、社会への貢献とともに企業価値を向上させ

ていくことに努めています。企業価値を継続的に高めていくために、経営の透明性確保と多面的な経営への監督機能が重要であると認識し、コーポレート・ガバナンスの充実に向けての取り組みを実施しています。

■ ガバナンス体制の強化

シチズングループでは、サステナブル経営の実践とガバナンス体制の強化を目指し、これまでの推進体制を見直し、より機能的な審議と迅速な意思決定を可能とするために、「サステナビリティ委員会」を設置しました（p9「サステナブル経営の推進体制」を参照ください）。これにより、経営層とオペレーションとのコミュニケーションが円滑になるとともに、サステナビリティ関連の重要な課題や取り組み、リスク

についての取締役会の監督機能の実効性の向上を図ります。なお、推進体制刷新以外の、2019年度取締役会におけるサステナビリティ関連の主な審議事項は、以下のとおりです。

- グループ会社の品質コンプライアンス違反の再発防止策に関わるモニタリング概況調査報告
- 「シチズングループCSR調達ガイドライン」の改定
- 2030年までの各マテリアリティのロードマップの検討

■ 腐敗防止への取り組み

シチズングループは、腐敗防止に対する取り組みを一層強化していくことを目的として、「シチズングループ腐敗防止方針」を策定しました。シチズングループ行動憲章の第3条で掲げている「公正、透明、自由な競争、責任ある商行為を実践します」を確実に実践していくために、取締役会や経営者の責任や適切な情報公開にもとづく説明責任の遂行について、明確にしています。

事業活動上の腐敗行為の早期発見のための内部通報制度の整備、不測の事態への対応や再発防止の重要性についても規定し、サプライチェーン全体に対しても、理解・協力を求めるものとしています。2020年度も引き続き教育・研修を行い、内部通報制度も活用し様々な提案や意見を吸い上げながら、腐敗防止を徹底していきます。

■ リスク・危機管理の徹底

これまでの委員会体制の在り方を総合的に見直したことを受け、より一層のリスク・危機管理の強化を図りました。シチズン時計のCSR部門を中心とする、グループ全体でのリスク・危機管理の適時的確な実施を掲げ、グループ各社が連携する恒常的な体制

を再構築しています。定期的なリスクアセスメントプロセスを通じて、シチズングループが直面している、或いは今後重要視する必要がある新たなリスクを特定し、グループ重要リスクとして取りまとめています。

■ 基本的な考え方

シチズングループでは、安心、安全、品質、環境に十分配慮した製品・サービスの提供を持続的に行うことを目的として、2018年度に品質コンプライアンス委員会を設置しました。

この委員会は、各社の品質担当役員で構成され、品質に関するコンプライアンス遵守の浸透の他、内部通報制度の実効性の向上にも取り組んでいきます。

■ グループ品質行動憲章の浸透

2018年度に品質コンプライアンス委員会で策定した「グループ品質行動憲章」の更なる浸透に向けて、2019年度は、教育・研修の徹底を図りました。グループ全体として、新任役員や新入社員に対しての「品質コンプライアンス研修」をプログラム化するなど、重点対象者も明確にしたコンプライアンス研修体制を構築しています。また、内部通報制度の

実効性向上を目指し、継続的な改善に取り組んでいます。2018年度には、品質不正の未然防止及び早期発見のため、内部通報制度を「コンプライアンスホットライン」へと見直しを行うとともに、「コンプライアンスホットライン規程」の策定や、利用者及び窓口担当者のガイドラインを設けており、継続して制度の周知と透明性の向上を目指していきます。



コンプライアンス研修の様子

シチズングループのリスクマネジメント体制

